

データレポートの読み方・使い方



データレポート活用の意義



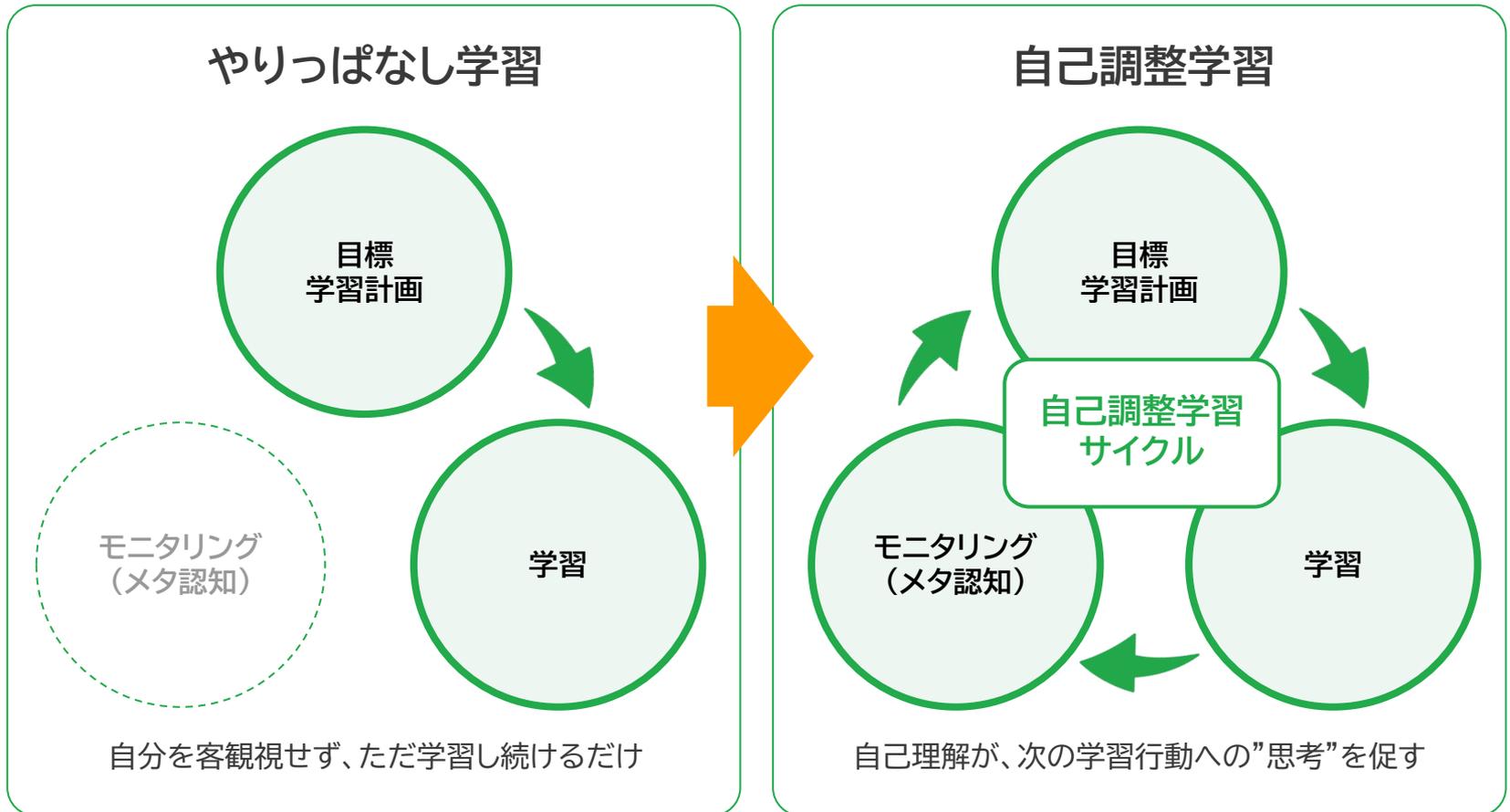
“自律的”に学べるような子どもたちを育てたい

これからの教育において、生徒自身が自分の学びを自律的にコントロールすることは、ますます重要になります。「AIや誰かの言いなり」にならず、子どもたちが自分の状態を理解(メタ認知)し、何をすべきかを自分の頭で考え、自分なりに学習を自己調整していく。そうした中で得られる成功体験が、「学びの面白さ」や「自分に秘められた力」に気づくきっかけとなり、子どもたちが不確実な未来を「生きる力」を育むと信じています。

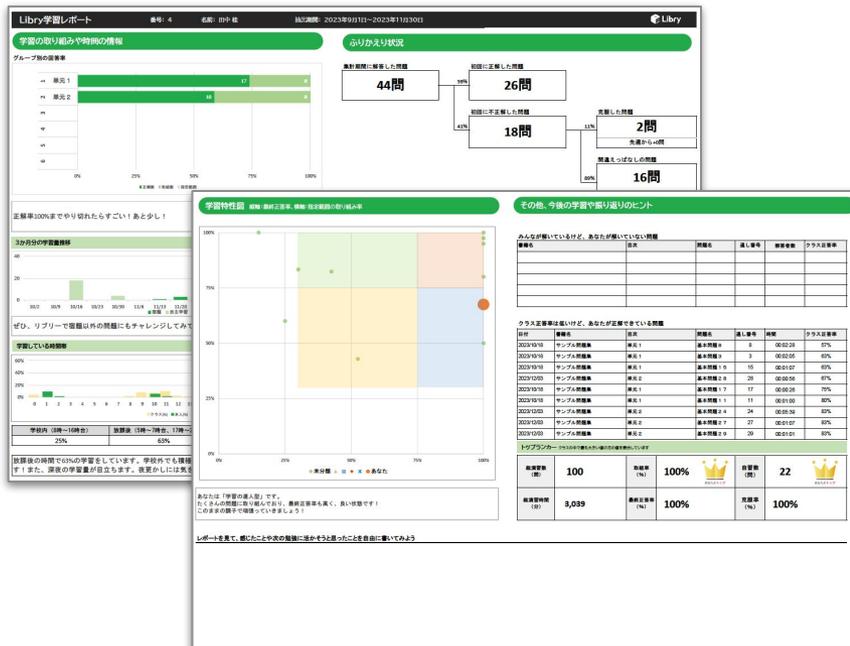
「自律的」に学べる子どもたちを増やすためにも、学習データレポートを活用いただけますと幸いです。



適切なモニタリングが、主体的な学びに導く



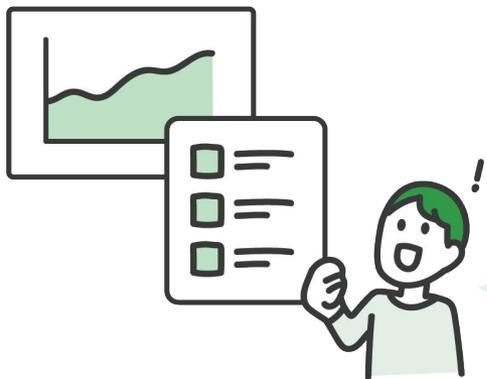
リブリーの「学習データレポート」は 生徒の「適切なモニタリング」を促す強い武器！



学習データレポートによる自己調整学習の促進は、 学習指導要領との方向性とも合致

生徒一人一人がよりよい社会や幸福な人生を切り拓いていくためには主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等が必要となる。これらは、自分の思考や行動を客観的に把握し認識する、いわゆる「メタ認知」に関わるを含むものである。こうした力は、社会や生活の中で生徒が様々な困難に直面する可能性を低くしたり、直面した困難への対処方法を見いだしたりできるようにすることにつながる重要な力である。

【総則編】高等学校学習指導要領 P41」より引用



■リブリーの目指している姿と3観点の関係

学習状況を客観視することで、課題や解決策を自分なりに思考し、次に何をすれば良いかを自分で判断する。

②思考力、判断力、表現力等

そして、学習の自己調整を自分から主体的に実行する。

③学びに向かう力、人間性など

それにより、より意欲的・効果的に学習することができ、確かな知識及び技能が習得される。

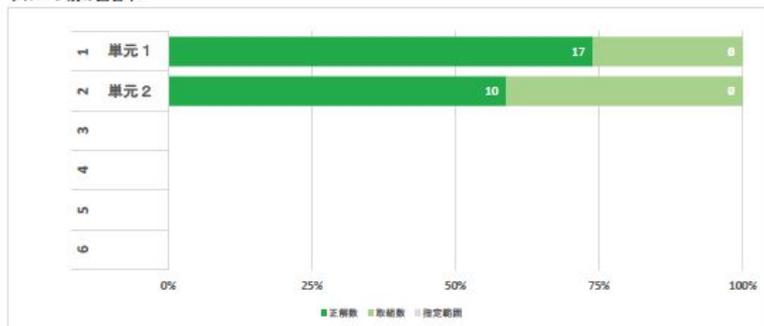
①知識及び技能

学習データレポートの詳細



学習の取り組みや時間の情報

グループ別の回答率



正解率100%までやり切れたらすごい! あと少し!

3か月分の学習量推移



ぜひ、リブリーで宿題以外の問題にもチャレンジしてみてください!

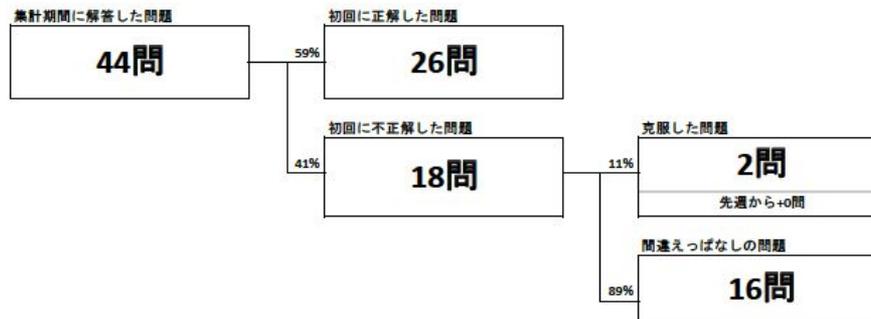
学習している時間帯



学校内 (8時~16時台)	放課後 (5時~7時台、17時~23時台)	深夜学習 (0時~4時台)
25%	63%	12%

放課後の時間で63%の学習をしています。学校外でも積極的に学習ができていますね! すごいです! また、深夜の学習量が目立ちます。夜更かしには気をつけてください。

ふりかえり状況



過去に間違えた問題の11%を克服できています。振り返って解けるようになると、成長を実感できますよね。ぜひ積極的に、間違えた問題を振り返っていきましょう。

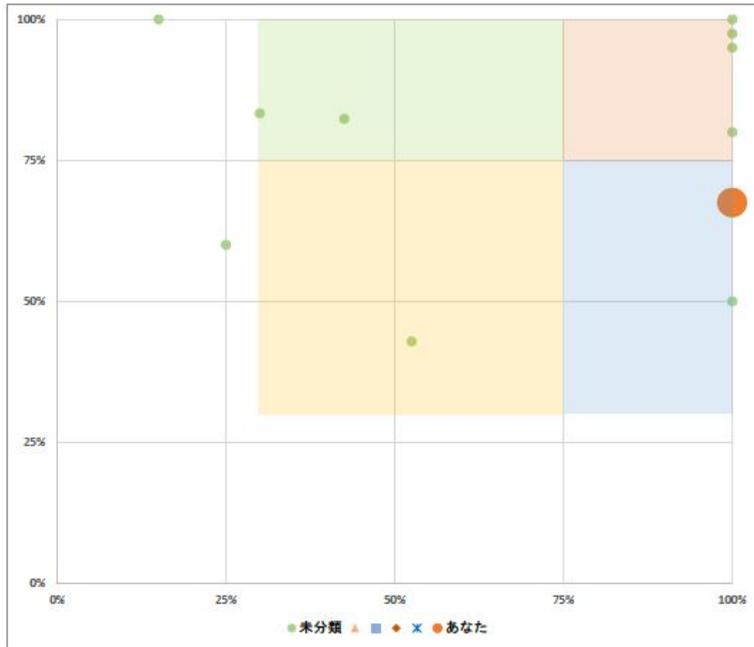
最近克服した問題

日付	書籍名	目次	問題名	最終結果	時間	クラス正答率
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 1 0	○	00:00:39	90%
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 1 1	○	00:01:00	80%
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 1 2	○	00:00:21	100%
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 1 3	○	00:00:23	90%
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 3	○	00:02:05	63%

優先して振り返るべき問題

日付	書籍名	目次	問題名	最終結果	時間	クラス正答率
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 5	×	00:01:32	88%
2023/12/04	サンプル問題集	単元 2	基本問題 4 0	×	00:03:35	83%
2023/12/04	サンプル問題集	単元 2	発展問題 2	×	00:01:35	80%
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 1 4	×	00:00:47	75%
2023/12/03	サンプル問題集	単元 2	基本問題 3 3	×	00:02:17	67%
2023/12/03	サンプル問題集	単元 2	基本問題 3 4	×	00:03:31	67%
2023/12/03	サンプル問題集	単元 2	基本問題 3 7	×	00:05:17	67%
2023/12/04	サンプル問題集	単元 2	基本問題 3 8	×	00:03:53	67%
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 6	×	00:00:00	63%
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 1 6	×	00:00:38	63%
2023/12/04	サンプル問題集	単元 2	発展問題 3	×	00:02:58	60%
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 2	×	00:01:56	56%
2023/12/04	サンプル問題集	単元 2	基本問題 3 9	×	00:03:28	50%

学習特性図 縦軸：最終正答率、横軸：指定範囲の取り組み率



あなたは「学習の達人型」です。
 たくさん問題に取り組んでおり、最終正答率も高く、良い状態です！
 このままの調子で頑張ってください！

レポートを見て、感じたことや次の勉強に活かそうと思ったことを自由に書いてみよう

その他、今後の学習や振り返りのヒント

みんなが解いているけど、あなたが解いていない問題

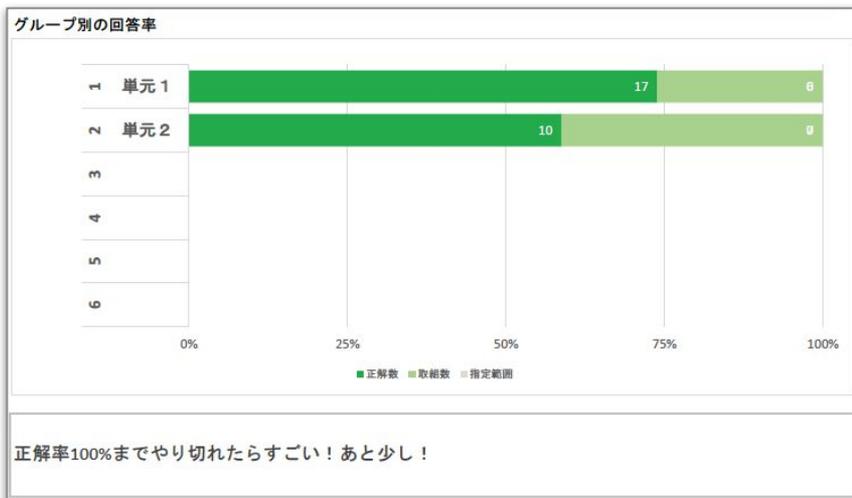
書籍名	目次	問題名	通し番号	解答者数	クラス正答率

クラス正答率は低いけど、あなたが正解できている問題

日付	書籍名	目次	問題名	通し番号	時間	クラス正答率
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 8	8	00:02:28	57%
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 3	3	00:02:05	63%
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 1 5	15	00:01:07	63%
2023/12/03	サンプル問題集	単元 2	基本問題 2 8	28	00:00:56	67%
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 1 7	17	00:00:26	75%
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 1 1	11	00:01:00	80%
2023/12/03	サンプル問題集	単元 2	基本問題 2 4	24	00:05:39	83%
2023/12/03	サンプル問題集	単元 2	基本問題 2 7	27	00:01:07	83%
2023/12/03	サンプル問題集	単元 2	基本問題 2 9	29	00:01:01	83%

トップランカー クラスの中で最も大きい値の方の値を表示しています

総演習数 (問)	100	取組率 (%)	100%  あなたがトップ	自習数 (問)	22  あなたがトップ
総演習時間 (分)	3,039	最終正答率 (%)	100%	克服率 (%)	100%



指定した範囲の問題の取組状況を可視化し、“やりきる”を支援

先生が指定した範囲の問題の学習進捗状況を可視化します。

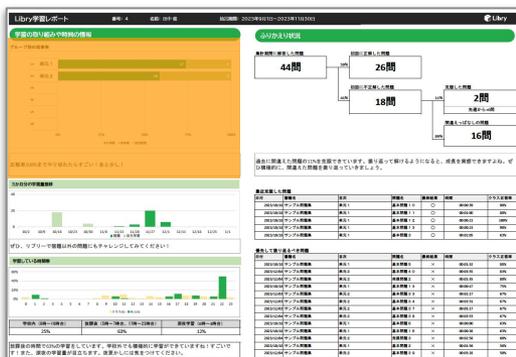
全量に対する学習進捗が見えるので、100%を目指して学習するなど、学習量を伸ばすための指針となります。

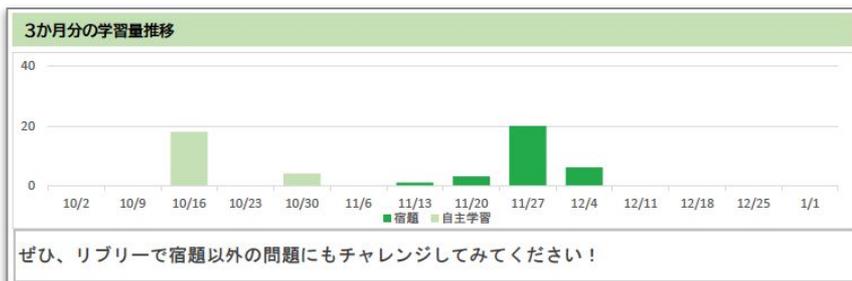
【色の定義】

- ・濃い緑: 正解した問題の数
- ・薄い緑: 取り組んで、最終的に正解していない問題の数
- ・灰色: 指定範囲で取り組んでいない問題の数

想定される利用方法

- 試験2週間前に生徒に見せて、「取組率は100%を目指そう！」「正解率は70%を目指そう！」などと声を掛ける
- 単元を「試験範囲(基本)」「試験範囲(応用)」などのように設定をして、「応用問題は余裕があれば取り組んで、基本問題は100%を目指そうね」などと声を掛ける





学習量の週ごとの推移を可視化して、学習量の変化を愛でる

週ごとの学習量の変化を可視化します。宿題以外の問題の取組量なども可視化されるため、主体的な学習の状況も確認できます。

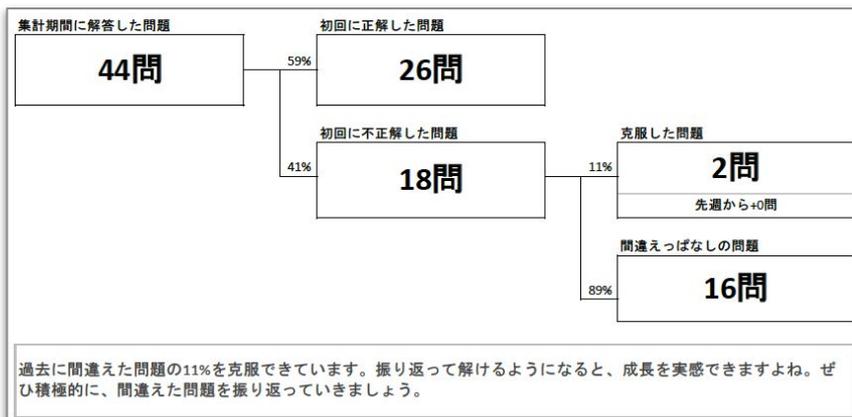
【色の定義】

- ・濃い緑: 宿題として出された問題の学習量
- ・薄い緑: 宿題以外の問題の学習量

想定される利用方法

- 生徒自身の週ごとの学習量(問題数)の目標値を決めさせて、その目標値に到達しているかどうかを自分で確認させる
- 学習量が最近増加傾向にある生徒に「最近、頑張ってるみたいだね！」と声を掛ける
- 宿題以外の問題(薄い緑)に取り組んでいる生徒にポジティブな声を掛けをおこなう





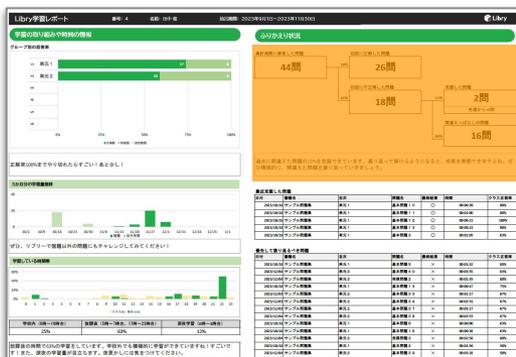
自分の「振り返りの結果」や「間違えっぱなし」を可視化し、主体的な学びを促す

自分の学習状況の”全体像”を可視化します。自分が解いた問題に対して、初回に不正解した問題の中で「間違えっぱなしにしている問題」がどれくらいあり、「正解できるまで取り組んだ(克服した)問題」がどれくらいあるかを可視化します。

克服した問題は成長実感や自信になり、間違えっぱなしの問題は次の学習の指針になります。

想定される利用方法

- 克服した問題(先週からの比率)を、生徒の努力の結果として褒めるポイントとする
- 間違えっぱなしの問題が多い生徒に、振り返り学習を促すきっかけとする
- 間違えっぱなしの問題はちゃんと潰しておこうとクラス全体に周知する



日付	書籍名	目次	問題名	最終結果	時間	クラス正答率
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 1 0	○	00:00:39	90%
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 1 1	○	00:01:00	80%
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 1 2	○	00:00:21	100%
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 1 3	○	00:00:23	90%
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 3	○	00:02:05	63%

最近克服した問題を見える化し、褒めるきっかけをつくる

初回に間違えていたが、最近正解に変わった問題を、新しい順に5問表示します。
 正答率や学習量で目立たない生徒に対しても、「振り返ったという努力」を褒めるきっかけとしていただきたいです。

想定される利用方法

- 最近克服した問題を確認、「間違えた問題にもう一度取り組めていて偉いね！」と声を掛ける



優先して振り返るべき問題						
日付	書籍名	目次	問題名	最終結果	時間	クラス正答率
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 5	×	00:01:32	88%
2023/12/04	サンプル問題集	単元 2	基本問題 4 0	×	00:03:35	83%
2023/12/04	サンプル問題集	単元 2	発展問題 2	×	00:01:35	80%
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 1 4	×	00:00:47	75%
2023/12/03	サンプル問題集	単元 2	基本問題 3 3	×	00:02:17	67%
2023/12/03	サンプル問題集	単元 2	基本問題 3 4	×	00:03:31	67%
2023/12/03	サンプル問題集	単元 2	基本問題 3 7	×	00:05:17	67%
2023/12/04	サンプル問題集	単元 2	基本問題 3 8	×	00:03:53	67%
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 6	×	00:00:00	63%
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 1 6	×	00:00:38	63%
2023/12/04	サンプル問題集	単元 2	発展問題 3	×	00:02:58	60%
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 2	×	00:01:56	56%
2023/12/04	サンプル問題集	単元 2	基本問題 3 9	×	00:03:28	50%

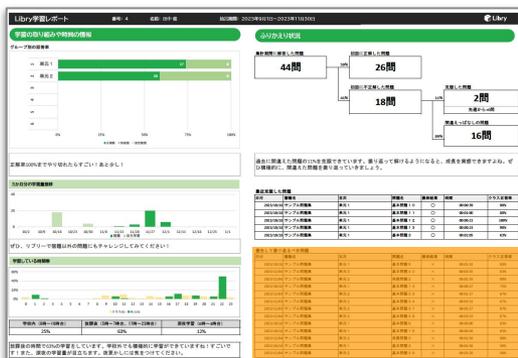
自分は間違えっぱなしだけど、みんなが正解している問題を見て、優先して振り返るべき問題に気づく

自分が間違えっぱなしにしている問題の中で、クラス正答率が高い順番に13問表示します。上段に表示されている問題になるほど、「みんなはできているのに、自分はできてない問題」となるので、優先して振り返る問題のヒントとなります。(※)

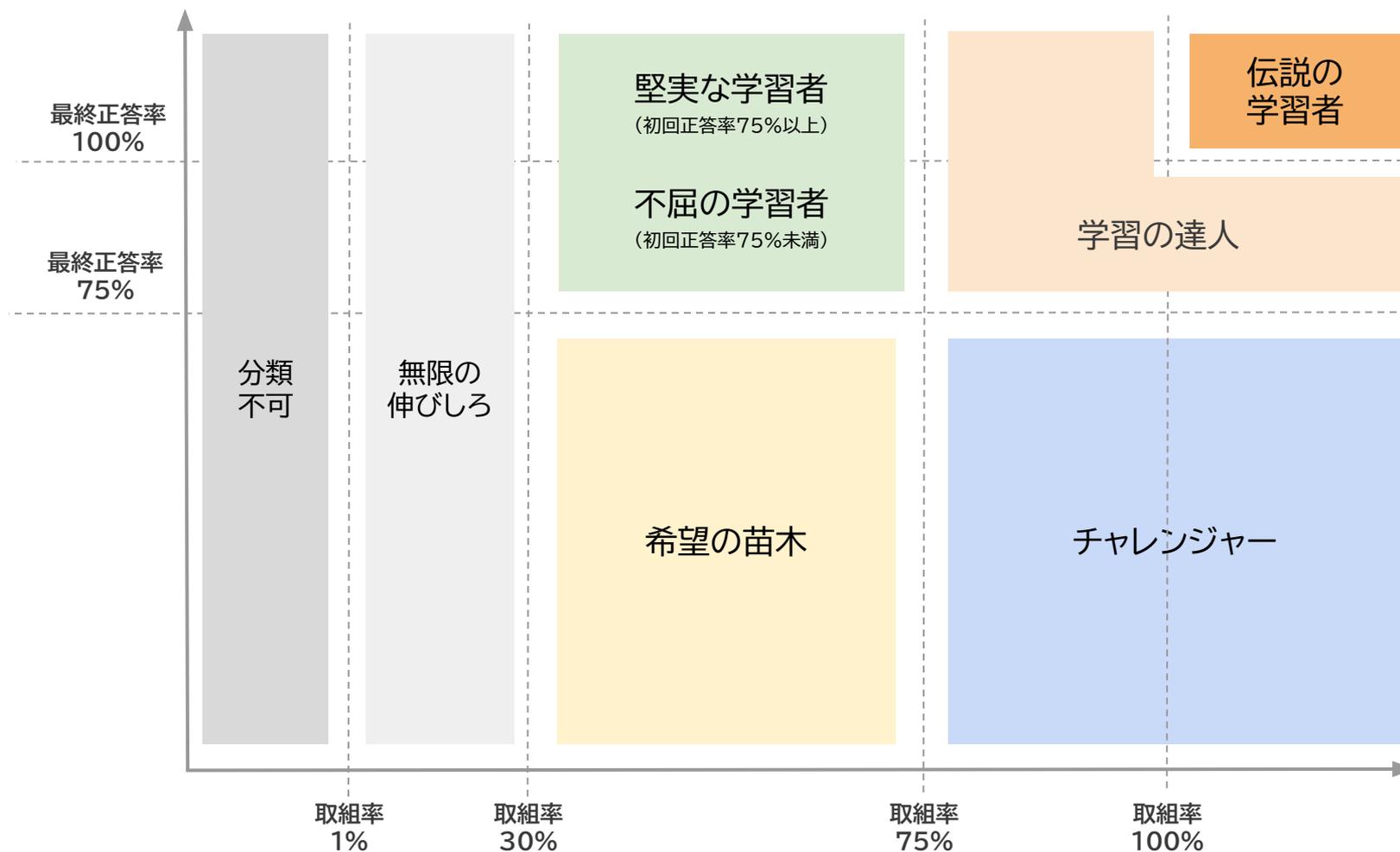
※生徒様によっては、次は明らかに解けるからあえて解き直していない問題もあると思いますので、どのように解釈すべきかは生徒様の学習スタイルや先生の指導方針によって考えてください。

想定される利用方法

- 克服した問題(先週からの比率)を、生徒の努力の結果として褒めるポイントとする
- 間違えっぱなしの問題が多い生徒に、振り返り学習を促すきっかけとする
- 間違えっぱなしの問題はちゃんと潰しておこうとクラス全体に周知する



【補足】学習特性一覧



指定範囲の取組率と、最終正答率によって、生徒の学習特性を8種類に分類

みんなが解いているけど、あなたが解いていない問題

書籍名	目次	問題名	通し番号	解答者数	クラス正答率

「あなただけ解いてない。」 置いてけぼりを可視化する

自分が解いていない指定範囲の問題の中で、クラス正答率が高い順に5題ピックアップします。誰だって、置いてけぼりは嫌なものなので、積極的に学習に取り組むきっかけになります。

想定される利用方法

- レポートを見て、生徒が「この問題って、みんな取り組んでるじゃん」と気づいて、自主的な学習が促される
- 学習にあまり積極的に取り組めない生徒に対して、「みんなもやってるし、まずはここからやってみようか」と声をかける



日付	書籍名	目次	問題名	通し番号	時間	クラス正答率
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 8	8	00:02:28	57%
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 3	3	00:02:05	63%
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 1 5	15	00:01:07	63%
2023/12/03	サンプル問題集	単元 2	基本問題 2 8	28	00:00:56	67%
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 1 7	17	00:00:26	75%
2023/10/18	サンプル問題集	単元 1	基本問題 1 1	11	00:01:00	80%
2023/12/03	サンプル問題集	単元 2	基本問題 2 4	24	00:05:39	83%
2023/12/03	サンプル問題集	単元 2	基本問題 2 7	27	00:01:07	83%
2023/12/03	サンプル問題集	単元 2	基本問題 2 9	29	00:01:01	83%

自分だけ解けている問題を知って、自分の得意分野に気づく

自分が正解できた問題の中で、クラスの正答率が低い問題を、低い順番に9題表示します。みんなが難しいと言っているのに、自分だけ正解できる問題は、自分の得意分野かもしれませんし、先生が「すごいじゃん」とポジティブな声をかけるきっかけになるかもしれません。

想定される利用方法

- 勉強が得意じゃない生徒に対して、「この問題できたのすごいね」「こういう問題は得意分野なんじゃない？」と励ます
- 生徒がレポートを見て、「この問題って意外とみんな解けてないんだ」と、自分を客観視し、優越感に浸る



トップランカー クラスの中で最も大きい値の方の値を表示しています					
総演習数 (問)	100	取組率 (%)	100%  <small>あなたが一番</small>	自習数 (問)	22  <small>あなたが一番</small>
総演習時間 (分)	3,039	最終正答率 (%)	100%	克服率 (%)	100%

クラスの頑張ってる生徒を可視化 評価軸を多観点にし、自分の誇らしい 場所を発見する

各項目における「クラスの中のトップの生徒のスコア」が表示されます。また、自分のスコアに応じてアイコンが表示されるため、「自分はこれは頑張った」という感覚が得られます。

【アイコンの定義】

- ・金:1位
- ・銀:トップ15%
- ・銅:トップ30%

単純なテストの成績ではない形で、生徒を表彰することで、表彰できる生徒を増やします。

なお、本レポートでは、自分のスコアとの差を見て、モチベーションが下がらないように、生徒自身のスコアはあえて表示していません。先生用レポートには具体的な数値も記載してありますので、必要に応じて生徒に提示してください。

想定される利用方法

- 成績だけでは見つからない、生徒の褒めポイントを見つける



具体的な活用例(モデルケース)



学期初め
中間後

定期試験
2週間前

定期試験

答案返却

目標設定

この時点では、データレポートは出力する必要はありません。

データレポートのサンプルを生徒に見せて、レポートの存在を周知します。

そのうえで、生徒ごとに「今回の定期試験に向けた目標」を自分なりに立てさせます。
(到達率は80%を目指す、最終正答率は70%を目指すなど)

現在地の把握

試験準備期間が始まるタイミングで、データレポートを出力し、生徒に配布します。

生徒は「自分の目標」と照らし合わせて、自分の現在地を把握します。その上で、裏面下部の振り返りスペースや自分のノートに、「試験までにやること」をメモさせて、「学習計画」を明文化させる。

先生も、気になる生徒がいたら、レポートに基づいて声かけを行う。

振り返り

テストが終わったタイミングで、データレポートを出力し、生徒に配布します。

その際、先生は裏面の「学習特性図」において、成績上位者とそれ以外の生徒でマークを付けるようにしておきます。

テストの成績と、自分の学習状況の結果を見比べて、生徒なりのテスト勉強に対する振り返りを促します。

学期初め
中間後

2週間後

2週間後

2週間後

...

目標設定

この時点では、データレポートは出力する必要はありません。

データレポートのサンプルを生徒に見せて、レポートの存在を周知します。

そのうえで、生徒ごとに「今回の定期試験に向けた目標」を自分なりに立てさせます。
(到達率は80%を目指す、最終正答率は70%を目指すなど)

2週間ごとの振り返り

2週間ごとにデータレポートを出力し、生徒に配布します。

生徒の2週間ごとの成長が可視化され、成長を実感することによって、「勉強をしたら、その分ちゃんと前に進んでいる感覚」が醸成されることが期待されます。

また、「他人との相対的な位置」が把握でき対抗心が芽生えたり、「自分の到達度の伸び」を把握することによって、ゲームのレベル上げの感覚で、学習に取り組めます。

また、日常的な学習状況から、クラスに対しての学習指導を行うことができます。
先生のご負担は増えますが、生徒が常に自分の状況を把握しながら、学習に取り組むことができます。